Submission No.:1000153 リフレッシャーコース アドバンスト

[リフレッシャーコース]第2・呼吸_アドバンスト/爆傷:麻酔科医...

爆傷:麻酔科医の知るべき対応方法

Blast injury: The essence for anesthetist

- *鈴木 降雄1
- *TAKAO SUZUKI1
- 1. 合同会社クルディ・メディカル
- 1. KURDI MEDICAL LLC

爆傷が生物・化学兵器ではなく、鉄片を飛散させるタイプの場合、その対応は普通の戦傷外科と変わらな い。どんな爆発方法でも砲弾が爆発したときと同様、爆風の影響は軽微で近距離であれば、爆薬による火 傷、そして鉄片による肉体の損傷である。汚染創にはデブリードマンを行なうが、そのあと開放創ではなく直 ちに縫合する医療人が多い。これでは創部感染が治まらず、適切な麻酔・集中治療を施したとしても医療成績 は向上しない。

爆傷:麻酔科医の知るべき対応方法